

長野県内新産地報告 (1)

竹重 聡*

ナカミシシラン

Vittaria fudzinoi

シシラン科シシラン属で常緑性のシダ。根茎は短く匍匐、葉を相接してつけ、鱗片を密につける。葉柄ははっきりせず、暗色の基部まで翼がある。葉身は線形、尾状の先端に向けてしだいに狭くなり、長さ 15～25cm、幅は 3～5mm、厚くてやや肉質。



写真1 ナカミシシラン生育環境



写真2 ナカミシシラン

中肋は裏面でやや隆起し、幅広く、平滑、表面にも少し隆起し、その両側に明瞭な溝が 2 本ある。2006 年 4 月、飯田市上北又沢上流黄蓮地籍の急峻なハングした岩棚上面に 4 株が着生、やや下垂していた。長野県絶滅危惧 1 B 類。

シロバナミヤマタムラソウ

Salvia lutescens (Koidz) Koidz (A.P.G. III .151(1934))
var. *crenata murata* (A.P.G.X IV .190(1952)) f. *leucantha murata* (A.P.G.X IV .190(1952))

シソ科アキギリ属の多年草。2008 年 8 月 9 日、大鹿村深山溪谷の沢西側岩棚崩壊部の半日陰斜面に 30～40 本自生。花色は白く、葉の裂片の縁が丸く、葉肉はやや厚い。葉の表面はつやがあり深い緑色。花冠は唇弁の長さ 1cm ほどの外面に長い軟毛が白く目立ち、雄しべは 2 個で、花外につきだす。草丈は 20～30cm、1 花茎に 5 花から 9 花、現地の花



写真3 シロバナミヤマタムラソウ生育環境



写真4 シロバナミヤマタムラソウ

* 竹重聡 〒381-2246 長野市丹波島 2-16-3

径はすべて枝分かれをしないで1本で咲いていた。各葉身の付け根部と葉柄は軟毛が目立ち、花茎の軸は無毛で葉面は表裏有毛。花茎が満開の頃、根茎付近で新芽の分化が始まり、花期は8月5日頃まで。花茎が枯れた頃、走出枝ほどではないが四方に芽を立ち上げる。近くに淡藍紫色のミヤマタムラソウの花が、3～4本枝分かれし、各々の花茎に20花ほど付けて咲いていた。なぜシロバナミヤマタムラソウは花茎が1本、そして花の着花数が少ないのか、色の優勢に関係があるのだろうか。

2009年8月15日、村田源京都大学名誉教授の同定によりシロバナミヤマタムラソウ、村田源(1952)に当たる、「比較的珍しい植物のようでシロバナは長野県[駒ヶ岳(T.Sugino, Aug 1931の標本がタイプ)付近]の他はない」とのこと。

カラフトミヤマシダ

Athyrium spinulosum

イワデンド科メシダ属の夏緑性シダ。30～50cm、亜高山帯の林下、高原の針葉樹林帯の林床にややまれに生じ群生する。広三角形の葉をまばらにつける。葉柄は葉身より長い。葉身は3回羽状複正三角形。縁は細裂する。2012年7月8日長野市戸隠森林植物園の東屋付近に数十株自生しているのを確認。15～25cmと小さめで日差しの強い林内に生えていた。長野県環境保全研究所によると北信地方で報告例はなし。



写真5 カラフトミヤマシダ



写真6 ナツエビネ

ナツエビネ

Calanthe reflexa

ラン科エビネ属の多年草。湿り気のある林内に生え、白紫色の花を多数つける。花期は7月～8月。2011年シダの調査中、長野市中条で西日の当たる里山杉林の手入れのされた斜面に、8個が連なった地下茎のうち5個に高さ20～30cmの白紫の花を咲かせていた。長野県絶滅危惧1類。

謝辞

シダ植物の同定に有徳な助言とご教示を賜った岡武利氏、大塚孝一氏に心から感謝の意を表します。

またシソ科植物の同定に詳細なご教示を賜った村田源氏に心から感謝の意を表します。そして過分なる論文資料の提供に厚く御礼を申し上げます。

参考文献

- 岩槻邦男(1992)日本の野生植物 シダ 平凡社 東京
- 大塚孝一(2004)信州のシダ ほおずき書籍 長野
- 村田源 (1952)日本及び台湾産アキノタムラソウ 亜属 Acta Phytotax. Geobot. Vol. X IV ,No.6